

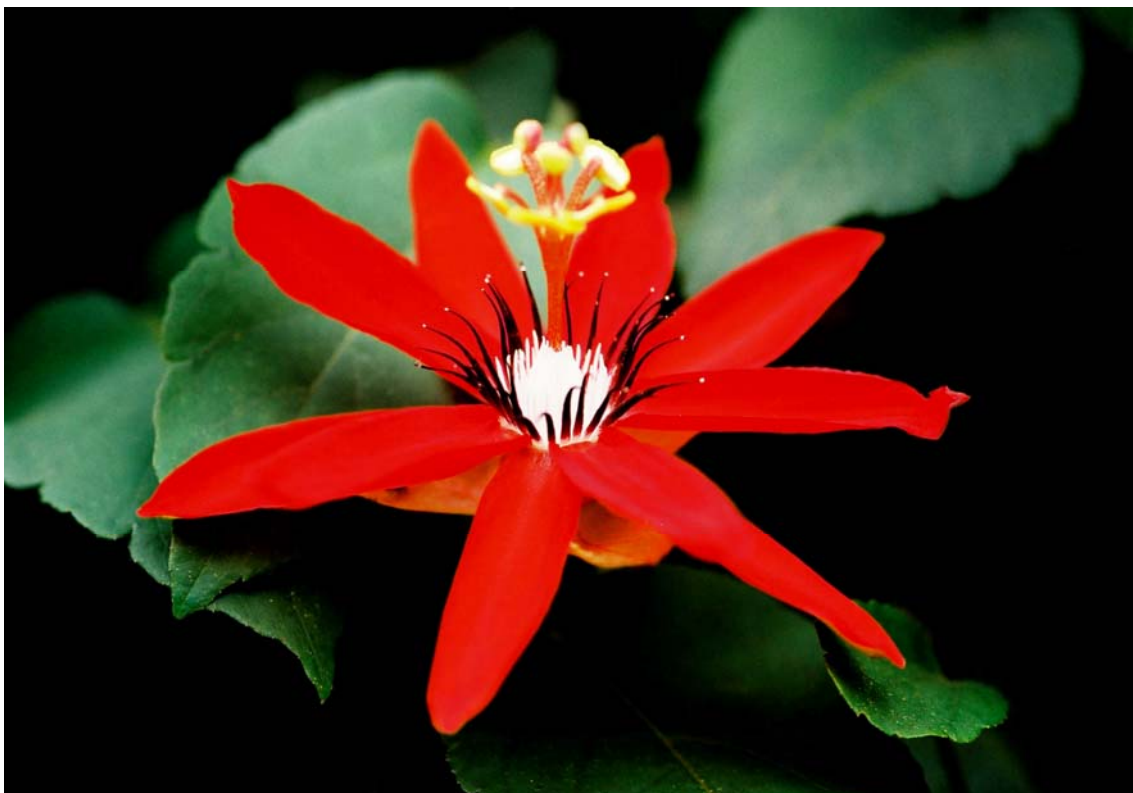
7) トケイソウ=時計草

トケイソウはトケイソウ科のツル性植物で、南米のブラジルからアルゼンチンにかけて原産地があり、マキヒゲを出して他物にからみつき、長さは4~5mに生長する。葉は掌状に5裂し、夏から秋にかけて花茎7~8cmほどの大形の花を開く。花弁は10枚あるように見えるが、花弁のように見えている5枚は実は萼片で、内面は白色や淡紅色、淡青色をしている。残りの5枚が花弁で、内面は淡紅色、淡青色である。また一見すると雄蕊のように見えているのは副花冠で、多数が糸状になっており、これがトケイソウの大きな特徴にもなっている。果実は熟すると紫色になり、食用となるものも少なくない。和名の由来は花弁と萼片と副花冠を、時計の文字盤にたとえ、雄蕊と雌蕊を時計の針に見立てたことによる。別称としてはボロンカツラで、江戸時代にトケイソウが伝来したとき、長崎で呼ばれていた呼称である。学名は『*Passiflora caerulea*』で、属名は「情熱の花」、種小辞は「青色の」という意味である。しかしこれには別の解釈もあり『*Passiflora*』は「キリストの受難」を意味しているという説である。いずれにしてもこの一風変わった花に、人々は特別な感慨を抱いたのだろう。このためかイギリスでの呼称は『*passion flower*』、中国では『西蕃蓮』である。蕃は草が繁茂するという意味で、ここでは野蛮人を意味しており、西方の蛮族の蓮という意味であろう。中国ではとかく外国人を野蛮人と見なす風があったのである。

16世紀に初めて南アメリカの異国の地で、トケイソウを目にしたイエズス会の宣教師たちは、アッシジのフランチェスコが夢に見たという『十字架の花』とは、このトケイソウであると信じた。このため彼らは『受難の花』と呼び、3本の柱頭からキリストの手足を打ち付けた3本の釘を思い起こした。そして5本の雄蕊は5カ所の傷を、副花冠はイバラの冠もしくはキリストの背後に輝く後光を、5枚の萼と副花冠(01-01-00-3参照)にある花弁は、ユダとペテロを除いた使徒を、掌状の葉は槍を、マキヒゲは鞭を象徴するものと考えた。このため宣教師たちは原住民が改宗を待ち望んでいる証であると信じて、布教に励んだという。キリスト教と植物の関係は極めて深く、しばしば紹介してきたが、このトケイソウはその極みということもできよう。

トケイソウ属は熱帯アメリカを中心に、アジア、オーストラリアなどに約400種が分布し、トケイソウの他に冬から春にかけて8~10cmの赤い花をつけるベニバナトケイソウ、ブラジル原産で赤くて長い花茎を垂れ下げて咲くホザキトケイソウ、食用にもなるクダモノトケイソウ、果実の大きいオオナガミクダモノトケイソウなどがある。クダモノトケイソウはパッションフルーツの名でも親しまれ、オオナガミクダモノトケイソウとともに食用として栽培されている。どれも美しい花を咲かせるために、古くから観賞用としても栽培されており、日本に伝来したのは江戸時代の中頃1728年(享保8年)のことで、オランダ人が南蛮船でもたらした。

トケイソウは耐寒性の強いものが多く、関東地方以西では屋外でも越冬できる。



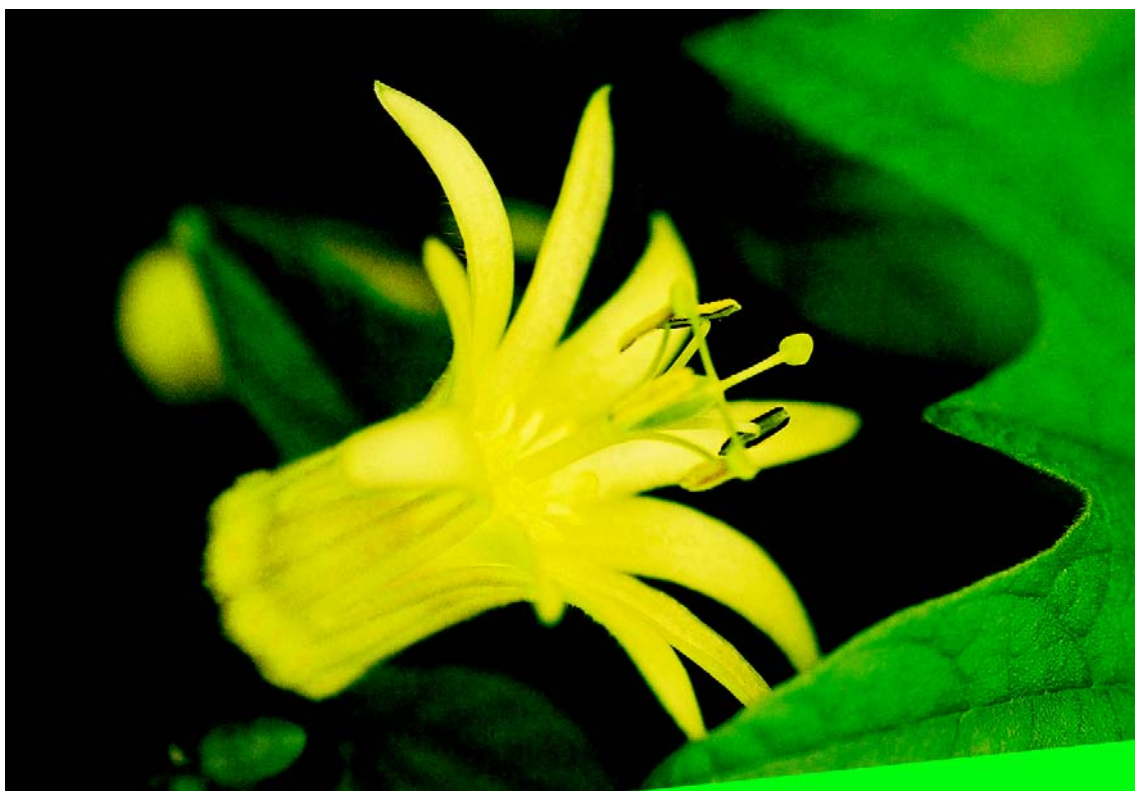
ベニバナトケイソウは、朝、開花して夕方にはしぼんでしまう。美しく咲いている時間はほんの数時間で、短い花の命の象徴的な花でもある(埼玉県深谷市)。



クダモノトケイソウ、もちろん果実は食用になる(埼玉県深谷市)。



大実トケイソウの果実は、マクワウリのような形をしており、大きさも長さが30cmほど、直径も15cmぐらいで重量は2kgを超えることもある(埼玉県深谷市)。



黄花トケイソウは観賞用である(埼玉県深谷市)。



イエズス会の宣教師が目にしたという、3本の柱頭と5本の雄蕊がよく見える。これをアッシジのフランチェスコが夢に見たという『十字架の花』と考えたのである(埼玉県深谷市)。



トケイソウの若い果実(埼玉県深谷市)。



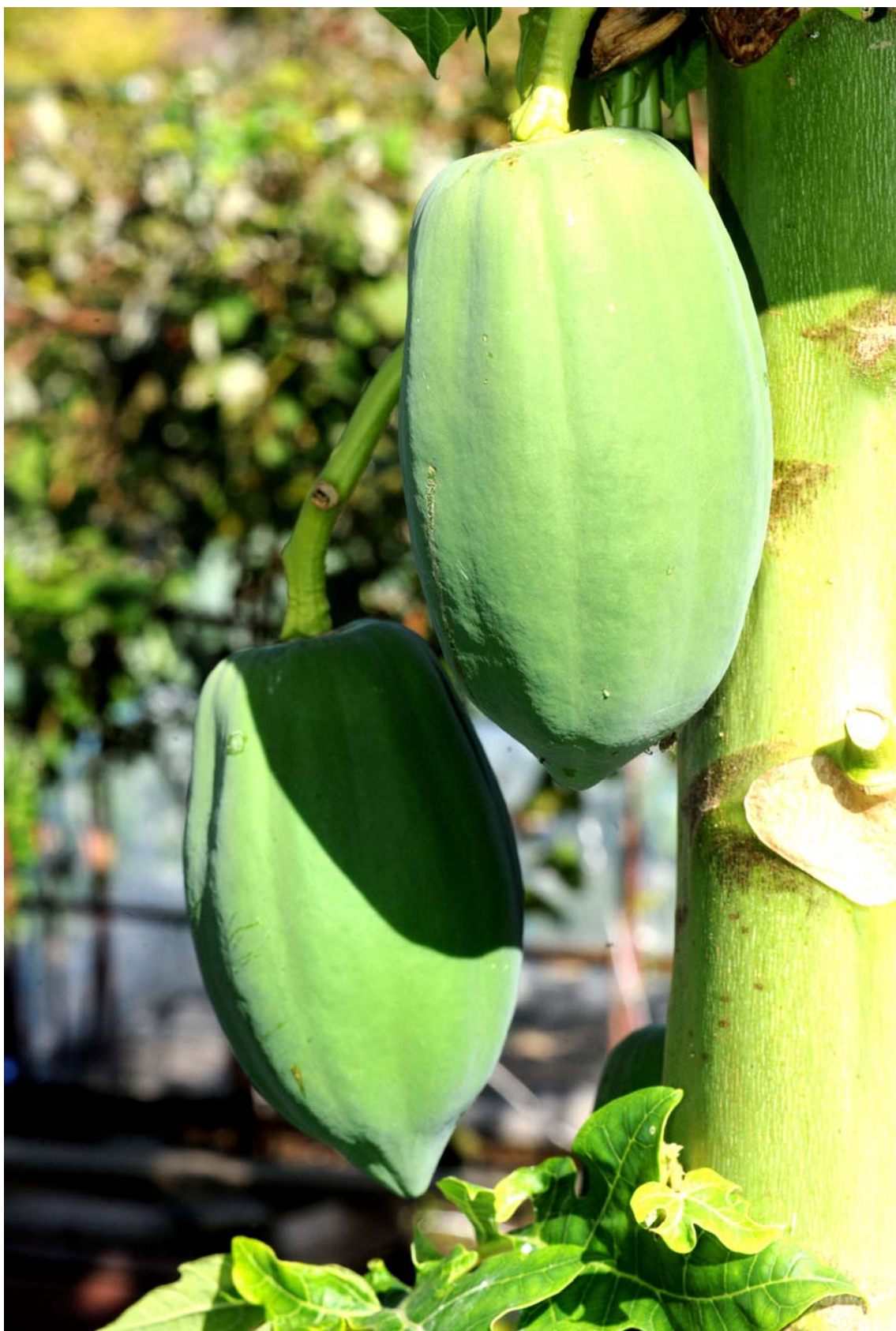
トケイソウの果実。最近10坪ほどの貸し農園があちこちに作られている。さいたま市では農家の現金収入の近道としての貸し農園が極めて多い。しかし農園を借りた方は夏の草取りに音をあげて、放棄するケースも少なくない。このためサツマイモのように簡単に作れるものや、逆に付加価値の高いものを作る耕作者も多い。これはそんな貸し農園で熟したパッションフルーツである。となりの畑にはパパイヤが実っていた(さいたま市大宮区)。



路地植えだから越冬は出来ない。春先に苗を植えてここまで育てたそうだ。



パパイヤの花。学名は『*Carica papaya*』で、和名はパパイヤのほか『乳瓜の木(仔刈り木)』『万寿瓜(マンジュウ)』『蕃瓜樹(バンカジュ)』などとも言う。原産地はメキシコ南部である。



日本では沖縄に自生するが、果実はタイやフィリピンなどから輸入されている。

[目次に戻る](#)